

様式第 1 1 号(第 1 3 条関係)

鯖江市地域こどもの生活支援強化事業(こどもの居場所づくり)補助金
事業成果報告書

1 事業概要

事業名称	鯖江市こども食堂
利用施設の名称	鯖江市公民館
利用施設の住所	鯖江市鯖江町 1 丁目 1 番地
開催頻度(月当たり)	月 1 回
開催日時	令和〇年〇月△日、〇月〇日、〇月△日
年間の開催回数	3 回
年間の利用人数 (延べ人数)	こども： 20 人 おとな： 10 人 合 計： 30 人
平均利用人数 (合計人数÷回数)	30 人
運営責任者名	〇〇 〇〇〇
運営スタッフ数	4 人

【20 万円補助金】定期開催の場合は「月
〇回」、長期休暇中にまとめて開催した場
合は「補助期間内〇回」と記載
【5 万円補助金】開催回数を記載

定期開催の場合は「第 2〇曜日●時～●時」
開催回数が多い場合は「5 活動の記録のとおり」
と記載

運営責任者を合わせた人数

2 広報の実施内容 ※チラシの配布、配布先や SNS など具体的に記入

- ・チラシは別添のとおり
- ・SNS で周知するほか、公民館や学校にチラシを掲示してもらった。
- ・こども会や青年会、壮年会でチラシを配布して、参加を呼び掛けた。

3 支援が必要と思われるこどもの利用状況・対応

- ・〇月〇日に参加した、小学 5 年生の M さん(女児)が、「夜はいつもお母さんがいなくて、妹と 2 人で夜を過ごす」と寂しそうに言っていた。心配だったので、鯖江市こども家庭センターに M さんのことを情報提供した。この女児は、こども食堂に 2 回来てくれた。「来年のこども食堂には妹と来てね!」と伝えた。
- ・その他のこどもは、特に気になることもなく、元気に楽しそうに参加していたが、鯖江市こども家庭センターの「こどもの相談窓口」のちらしを参加者全員に配布した。

4 事業の成果 ※地域の見守りの場になったなど具体的に記入

- ・こども食堂に来てくれたこどもは元気いっぱいなこどもばかりだったが、配布した「こどもの相談窓口」のちらしをじっくり読んでいる子もいた。顔見知りになった子は、家のことや学校のことなどを相談してくれるようになった。
- ・日頃から挨拶する子が増えた。地域の交流が盛んになった感じがする。
- ・こどもの親からは「子育てのストレスが減った」と感謝された。

5 活動の記録 ※活動状況が分かる写真の添付、写真の説明文を記入

①〇月△日（火・祝）10 時～13 時

参加人数：こども 20 人、おとな 10 人 計 30 人

食事メニュー：ごはん、唐揚げ、煮物、ハウレンソウのお浸し、野菜スープ

体験活動：学習支援（学生ボランティアの宿題チェック、絵本のよみきかせ）

活動の様子：学習支援は、学生ボランティアに宿題チェックをしてもらい、わからないところは指導してもらえた。保育園の子どもたちには、絵本の読み聞かせを行った。学習支援の後は、みんなで昼食。笑顔で食事を楽しんでいた。

写真添付

②〇月〇日（日）10 時～13 時

参加人数：こども 15 人、おとな 7 人 計 22 人

食事メニュー：ごはん、ハンバーグ、サラダ、みそ汁

体験活動：ジュースづくり

活動の様子：講師の指導のもと、いろんな材料を混ぜて手作りジュースをつかった。初めての体験でこどももおとなも楽しんでいた。

写真添付

③〇月●日（日）10 時～13 時

参加人数：こども 10 人、おとな 5 人 計 15 人

食事メニュー：親子丼、みそ汁、浅漬け

体験活動：調理実習（浅漬けづくり）

活動の様子：近所の〇〇さんからもらった野菜で浅漬けを作った。初めて包丁を持った子もいたので、ケガがないように手取り足取り教えた。こどもたちからは、「家でも作ってみたい」と好評だった。余った浅漬けを持ち帰りたいという子もいたが、食中毒予防のため持ち帰りは禁止した。

写真添付